

事業分類	事業名	事業内容	成果指標 (重点事業のみ)	計画策定時点の 現状値(重点事業 のみ) ※()内は現状 値の該当年度	令和9年度 目標値 (重点事業のみ)	令和6年度実績 (重点事業は成果 指標の実績値を 記載、事業の場合 は◎、○、△、×を 選択)	令和6年度取組内容等(「重点事業」 は取組内容を記載、「事業」について は、○以外のものについて取組内容や 予定どおり実施できなかった理由等 を記載)	子どもの権利の視点での自己評価(以下3つの視点に基づいて記載) (1)「意見表明・参加」の視点(子どもの意見を取り入れ、反映したものとなっているか) (2)「広報・周知」の視点(子どもがアクセスしやすい情報発信や子どもに分かりやすい情報提 供をしているか) (3)「子どもの最善の利益」の視点(事業を行ったことにより子どもにどのような効果があっ たか)	今後の課題・改善点 (子どもの権利の視点での評価対象 事業は、子どもの権利の視点での課 題・改善点も含めて記載する)	担当課
目標Ⅲ 子どもと子育て家庭を支える教育・保育環境を整備する										
取組の方向性(1)幼児期から学童期の教育・保育施設の整備										
主な取組②学童クラブの整備(計画冊子:P.108)										
事業	学童クラブ整備・ 運営(再掲)	保護者の就労等により、放課後、適切な保護を受けられない児童を対象に、遊びや生活の場を提供します。		◎	・学童クラブの需要見込みのピークに対応した暫定的な定員拡充等の待機児童対策を実施した。 ・日常的に医療的ケアを必要とする児童が学童クラブを利用できるように看護師を配置し、必要な医療的ケアを行った。	(1)	子どもたちが楽しくすごせるよう、子どもの声を聴きながら遊びや活動内容を工夫している。	今後の学童クラブの需要見込みを踏まえた上で待機児童が発生しないよう継続的な対策を実施する必要がある。	育成活動推進課	
		(2)				学童クラブで行うイベントや行事などについて、おたよりなどを通じてわかりやすく情報発信している。				
		(3)				看護師を配置することで医療的ケア児も安全・安心に放課後を過ごすことができている。				
	学童クラブICT環 境整備(再掲)	子どもの学習環境を充実するため、学童クラブ室にインターネット環境を整備します。		○	-	(1)	子どもたちが学童クラブでも学習できる環境整備を進めている。	今後、整備される小学校新校舎のキッズプラザにおいても、インターネット環境を整備していく。	育成活動推進課	
		(2)				学童クラブ室においてタブレットが利用できることを子どもたちに周知している。				
		(3)				子どもたちが学童クラブでも学習できる環境整備を進めている。				
取組の方向性(2)質の高い教育・保育サービスの提供										
主な取組①就学前の教育・保育の質の向上(計画冊子:P.110)										
	学童クラブ整備・ 運営(再掲)	保護者の就労等により、放課後、適切な保護を受けられない児童を対象に、遊びや生活の場を提供します。		◎	・学童クラブの需要見込みのピークに対応した暫定的な定員拡充等の待機児童対策を実施した。 ・日常的に医療的ケアを必要とする児童が学童クラブを利用できるように看護師を配置し、必要な医療的ケアを行った。	(1)	子どもたちが楽しくすごせるよう、子どもの声を聴きながら遊びや活動内容を工夫している。	今後の学童クラブの需要見込みを踏まえた上で待機児童が発生しないよう継続的な対策を実施する必要がある。	育成活動推進課	
		(2)				学童クラブで行うイベントや行事などについて、おたよりなどを通じてわかりやすく情報発信している。				
		(3)				看護師を配置することで医療的ケア児も安全・安心に放課後を過ごすことができている。				
	施設運営における 子どもの参加の推 進(再掲)	子どもが日常的に利用する児童館、キッズ・プラザ、学童クラブなどの子ども施設において、運営に関して子どもが様々な方法で意見を出せる機会を作ります。		○	-	(1)	児童館、キッズ・プラザ、学童クラブなどの子ども施設において、購入する玩具や遊びのルールなどを決める際は子どもの声を聴き、意見を取り入れるようにしている。	子ども会議の実施方法や普段子どもと接する中での子どもの声の聴き方等について、研修などを通じて職員が正しい知識を身に付け、実践できるようにする必要がある。	育成活動推進課 子ども・教育政策課	
		(2)				各施設において、子どもにもわかりやすいおたよりや掲示などを作成し、イベントや行事の内容を周知している。				
		(3)				子ども施設において子どもが遊びのルールなどに関して意見を出す機会を設けることで、子どもの思いを尊重した運営ができている。				
主な取組②多様な教育・保育サービスの充実(計画冊子:P.112)										
	子どもショートステイ(再掲)	保護者の入院や出張などにより、一時的に子どもの養育が困難な場合、区が委託した施設または区が認定した協力家庭の居宅で宿泊を伴って子どもを預かります。さらに、要支援ショートステイ事業やショートステイ協力家庭事業の充実を図ります。		○	-	(1)	ケースワークの中で子どもの考え等を聴き、子どもショートステイの利用の可否について決定を行った。	子どもの考えを聞いた上で、子どもショートステイの利用をしてもらうこと、利用した際の子どもの自身の感想、意見聴取等の方法を検討していく必要がある。	子ども・若者相談課	
		(2)				区報とホームページ上で周知を行っている。				
		(3)				子どもの安全な生活の確保を図ることができた。				